

新年にあたって

日高農業改良普及センター所長

福谷 洋一



新年あけましておめでとうございます。
います。

生産者の皆様には、日頃より普及活動に対しまして、ご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

昨年は、春・夏・秋に周期的な低温に見舞われ、被害には至らなかったものの6月中旬と7月下旬には大雨に見舞われました。

また、8月下旬には、観測史上初の北海道への三つの台風の上陸と迷走する台風10号により、日高管内のみならず全国的に大きな爪痕を残しました。改めて被害にあわれた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

昨年の品目別の作柄を振り返り

ますと、水稻は、移植の遅れたほ場では6月上旬の低温により活着や茎数増加に遅れが見られ、穂数はやや少なめとなりました。7月下旬には、低温と日照不足となりましたが、着粉数の減少や不稔粉の増加は見られません。面積当たりの着粉数確保は平年よりやや少ない傾向となりましたが、8月～9月の気温が高く推移し、登熟が良く、作況指数は101の平年並となりました。

牧草は、降雨により一番草収穫中盤で作業の遅れが大きく、二番草収穫も収穫始めは平年より早かったものの台風の影響もあり、中盤での作業停滞が見られました。収量は、一番草の草丈の伸びが順調で平年をやや上回るものとなっています。

飼料用とうもろこしは、は種始めが平年よりやや遅く、生育も平年より遅れて推移しました。草丈は平年より低く、雌穂の黄熟も遅れ、収量は平年より低めとなりました。

野菜におきましては、主力品目

のミニトマトは、加温促成作型は生育は概ね順調だったものの、小玉傾向となりました。抑制作型では、7月下旬の低温・日照不足で着果不良が見られ、8月下旬の台風により、一部で施設内の冠水も発生し、出荷量は前年より少なめに推移しました。単価は高めに推移したものの、販売額は前年を下回ることとなりました。

ほうれんそうなどの葉菜類は、期間を通して順調な生育となり、収量・品質とも平年並となりました。

黒毛和牛の素牛出荷頭数は、前年並と減少傾向に歯止めがかかりました。北海道市場での取引では、一頭単価は前年より25%上昇し、販売総額も前年を25%上回る結果となりました。

軽種馬においては、厳しい状況は続くものの、市場での売却頭数、売却率、販売価格とも引き続き前年を上回る結果となりました。

また、ホッカイドウ競馬におきましても、発売金額が18年ぶりに200億円突破を記録しました。当普及センターにおきましては、昨年4月に、より専門性を高めた支援活動と継続した活動体制の維持を図るため、機構改革が行

われましたが、今まで以上に「農家の傍に立つ普及」を展開する所存でございます。

今後とも、ミニトマトを中心とした野菜生産振興と黒毛和牛経営の生産基盤強化に向けた取組を支援し、新規就農者の受け皿としての機能を備えた産地として充実を図るため、生産者・関係機関の皆様と協同しながら取り組んで参ります。

併せて、軽種馬においては、「強い馬づくり」に繋がる「強い草づくり」への支援を展開して参ります。

また、生産者と消費者が安全・安心な農畜産物で繋がるべく、グリーン農業の実践・GAP認証への支援や生産者の所得確保に向け、地域資源を活用した6次産業化推進に向けて活動して参ります。

今後とも、人が残る・残れる地域を目指し、農業がその中心的役割を担えるよう、地域振興に寄与して参りたいと思います。

生産者の皆様におかれましては、今年も更なる発展の年となりますことをご祈念申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。